

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<https://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<https://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<https://www.amdamedicalcenter.com/>  
 AMDA 兵庫 <http://amda-hyogo.com/>

2023 年 1 月 25 日 VOL.46 第 304 号 定価 550 円  
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail: member@amda.or.jp  
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2023 年  
冬号

冬

救える命があればどこまでも

## 新春のごあいさつ

AMDA 理事長 菅波 茂

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。  
 2020 年 1 月から「新型コロナ」という世にも奇妙な疫病が世界中を席巻しました。結果的に世界の物流がずたずたに断ち切れ、世界の経済は一気に落ち込み、未だに回復していません。2022 年 2 月からロシアのウクライナへの軍事侵攻が開始され、世界のエネルギー危機と食糧危機が一段と加速してきています。これらの複合的要因によりインフレーションがどんどん加速して人々の生活苦が顕著になっています。

AMDA は 2022 年 3 月より 10 月半ばまでの 8 ヶ月近くにわたり、ウクライナ避難者支援のためにウクライナとの国境近くのハンガリーの町に医療チームを派遣しました。現地の団体や日本人医学生が多く学んでいるセンメルweis 大学医学部との協力体制のもとに支援を具体的な形で実施しました。『見放さない! その命。ウクライナ人道支援日誌』の題名で 2022 年 12 月 23 日に吉備人出版社から本を出版しています。

ウクライナ危機は 2023 年には終了かと予想されています。しかし、2023 年からは食糧危機が本格化するのではと危惧されています。疫病、戦争と災害などが重なって複合災害として世界中の人たちを悩ますことになるのではないかと。備えあれば憂いなし。憂いなければ備えなし。現今の「日本の平和」の前には備えなしです。テレビや新聞などが報道しない世界情勢にも気を配っておきたいと思っています。

「困った時はお互いさま」の相互扶助のもとに本年もお役に立つことができれば本望です。皆さま方のご健勝をお祈りし、また AMDA に対するご支援をよろしくお願い致します。



ネパール訪問 (9 月)



ネパールでの功績を称えられ盾を送られる (9 月)



岡山に緊急時物資支援センターを開所 (10 月)



インドでの学校制服贈呈 (11 月)



## ネパール訪問 (2022 年 9 月)

AMDA ネパール支部は 1989 年に設立され、1990 年に非営利活動法人『AMDA ネパール』としてネパール政府に認可されました。以来、ネパールの地域住民への保健医療サービスを提供しています。AMDA ネパール支部は、ダマック市、メチナガル市とブトワル市に病院を、ゴカルネソル市では歯科クリニックを、それぞれの自治体や商工会議所と協力しながら運営しています。

今年の 9 月下旬、菅波理事長が、AMDA ネパール支部が経営する 3 つの病院と歯科医院、さらには病院運営に協力していただいている各市の市長、副市長、商工会議所を表敬訪問しました。

AMDA ダマック病院は、ブータン難民キャンプ内の一次診療所で治療することができない救急患者や、手術が必要な患者を受け入れる病院として設立されました。現在は、100 床の総合病院として地元住民や難民に医療サービスを提供しています。シッダールタ母と子の病院は母子保健に特化した病院として、仏教の開祖ブッダが生まれたルンビニ州のブトワル市で保健医療を提供しています。AMDA メチ病院は 15 床の小さな病院です。内科の診療を主にしていますが、近くに母子保健の診療所がないため、今後、産婦人科医や医療器具を増やし、総合病院として住民の健康増進に関わっていくことを考えています。それぞれの自治体の市長や副市長からも、引き続き、病院の運営に協力する意思が示されました。

(ネパール担当 アルチャナ シュレスタ ジョシ)



## インド訪問 (2022 年 11 月)

2022 年 11 月 13 日、インド・ビハール州ブッダガヤにある AMDA ピースクリニックにて、開院 14 周年記念式典が行われました。2009 年に開院した AMDA ピースクリニックは 2014 年から母子保健を中心に、地域の妊産婦の健康管理に携わっています。

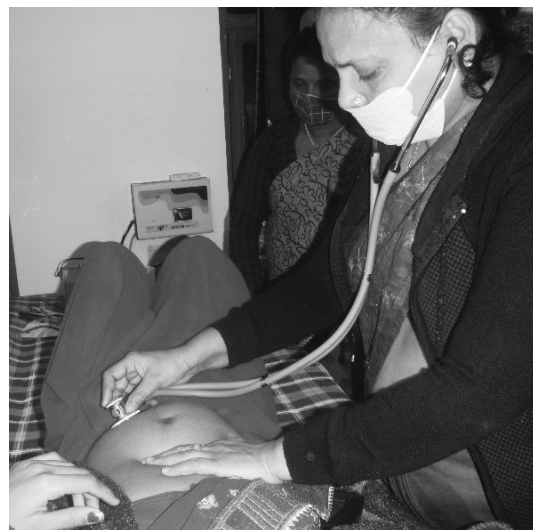
同クリニックでは、毎週 1 回、無料の栄養指導や健康教育プログラムを実施しています。また毎月第 2、第 4 金曜日には地元の産婦人科医による健診が行われています。このほか、医療スタッフが妊産婦の家庭訪問を行い、必要に応じて健康相談を実施しています。

1 月から 11 月の間に母子クリニックに新しく登録した妊婦の数は 59 人に上ります。この 1 年間で延べ 780 人が健診を受診しました。今後も継続して地元の妊婦を対象に妊婦健診、健康相談、健康教育や栄養指導に取り組む方針です。これに加えて、貧しい方々を対象とした食事支援を毎週行っています。

さらに、AMDA は 2021 年より現地の NGO『ジアナミタブ』が運営する学校に対して、教育支援を行っています。今回のブッダガヤ訪問の際に同校を訪れた菅波理事長は、45 人の生徒に制服を贈呈しました。

また、AMDA が支援している『お年寄りの家』(老人ホーム)を訪問。1 年間の食糧支援を行うことで合意し、その際、牛 1 頭、子牛 2 頭、アヒル 5 羽と鶏 20 羽を寄付しました。今後、牛乳や卵が入居者の栄養食品として毎日の食事に提供されます。また、牛乳や卵の生産量が増えれば、それらを市場で販売し、売上金から必要な日用品を購入することを考えています。

(インド担当 アルチャナ シュレスタ ジョシ)



## AMDA・JA 岡山 緊急時物資支援センター みつ STATION を開所 (2022 年 10 月 14 日)

この度、『AMDA・JA 岡山 緊急時物資支援センター みつ STATION』が、岡山空港へのアクセスも良い岡山市北区御津宇垣に開設されました。今後は、災害支援チームの食糧備蓄の強化、AMDA こども食堂支援プラットフォームや食糧危機に対応した備蓄や配送に備えていきたいと考えています。

(AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部 本部長 大西 彰)

### 『開所に寄せて』

「災害救援物資を保管する最適の場所はないか？」との依頼を受けた後、南海トラフ等、心配されている有事に備え、いち早く現地に救援物資が届けられるところ数ヶ所に出向いて検討しました。その結果、最適と判断したのが、JA 岡山が所有する御津宇垣の支所跡。国際空港でもある岡山空港まで約 6 分程度で行ける大変「地の利」の良い場所にあります。早速本社に出向きお願いしたところ、社会貢献の一環として心より快諾いただき、開所の運びとなりました。一朝有事に迅速に対応し、復興に貢献できれば幸甚です。

(元御津町長 安信 治雄)



### 本年度の参加訓練

#### ■令和 4 年度高知市総合防災訓練

11 月 13 日に開催された高知県高知市防災訓練（令和 4 年度高知市総合防災訓練）に参加しました。AMDA は 2020 年 7 月に協定を締結した『NPO 法人あゆみ』にて、これまでの災害支援に関するパネル展示を行いました。また鳥取県の『すなば珈琲』にキッチンカーでご参加いただき、来場者に鳥取砂丘の砂で焙煎されたコーヒーを無料で提供していただきました。

(AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム 合同対策本部 本部長 大西 彰)



#### ■令和 4 年度四国の右下防災旬間関連事業



11 月 27 日に開催された徳島県阿南市防災訓練（令和 4 年度四国の右下防災旬間関連事業）に参加しました。当日は、長野県にある諏訪中央病院が、徳島まで車で 10 時間かけて参加してくださいました。同病院には、有事の際、AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォームより、阿南市への医療チームの派遣をお願いしています。

(AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

合同対策本部 本部長 大西 彰)

### ＜参加機関より＞

AMDA 南海トラフ災害対応医療支援班として阿南市を担当される諏訪中央病院、AMDA 兵庫の皆さまに今年もご参加いただきました。諏訪中央病院の皆さまには遠路とあって大変ですが、チームでの救護活動を提示することは、当地域の保健所をはじめ、行政への意義は非常に大きいです。また AMDA 兵庫の江口先生は地元出身ということで、関係各所と交流を深められ、心強い限りです。内容的には今回、J-SPEED を利用した具体的な取り組みの一路が見え、傷病者役作りの際には AMDA 医療支援班である倉敷中央病院の皆さまにお世話になりました。今後は横の連携も是非進めましょう。

(医療法人芳越会 理事長 林 秀樹)

2022 年 11 月 27 日、徳島県阿南市にて開催された「令和 4 年度四国の右下防災旬間関連事業」に参加させていただきました。今回で 2 回目の参加でしたが、参加者された方々の訓練に対する意識が非常に高く、尊敬しました。初めて J-SPEED を用い、クロノロ（経時活動記録）の記載、診療日報や患者情報の記載、システムの確認を行うなど、利点や欠点を実証することができました。平時から行うことのできる「顔の見える関係性」も築くことができ、大変素晴らしい経験になりました。

(茅野市・原村・諏訪市の組合立 諏訪中央病院 業務調整員 松尾 昌（臨床工学技士）)



## ウクライナ避難者支援活動

AMDA は、2022 年 3 月 7 日より 10 月末まで 14 名の医師、看護師、調整員をハンガリーに派遣。ウクライナに近い国境地域で、避難者を対象とした医療支援、物資支援などを実施しました。現在はハンガリー、ウクライナ両国の関係者主導による支援を継続しています。ハンガリーでは、これまで活動を共にしてきたヴァルダ伝統文化協会を通じ、食糧や医薬品、防寒着等をウクライナ国内に提供。ウクライナのセントミッシェル小児総合リハビリセンターにエアコンを寄贈したほか、ハルキウでは、現地協力団体のダイナスティメディカルセンター主導による食糧支援が行われています。今後も現地と緊密に連携しながら、必要な支援を継続する方針です。



### 『自分にできることを探しながら』（派遣者手記）

私がロシアとウクライナが戦争を始めたと聞いたのは北海道の礼文島で働いている時だった。そのニュースを聞いた時、「まさかこの時代に」「すぐに終わるのかな」と思っていた。しかし戦争は続き、ウクライナ国内の被害や避難民が多数出ているとのニュースが世界中に流れた。私は看護師の派遣募集がいつ来ても対応できるように、礼文の仕事を終わらせ神奈川県へ戻った。

私にとってロシアとウクライナは、行ったことはないが身近な存在だった。青年海外協力隊としてウズベキスタンに派遣された経験からキリル文字・ロシア語などの共通点が多く、両国に友人、知人もいるためである。2つの国へ旅に出かけた友人たちは「美しく素敵な国であった」と皆口を揃えて言う。両国ともいつか訪れたい国の一つであり、それは今でも変わらない。

タイミングとご縁で 2022 年 9 月上旬から AMDA の調整員兼看護師として派遣していただけることになった。この原稿を書いているのは派遣から約 1 週間後のハンガリー国内からである。先日ウクライナとの国境まで避難民を迎えに行く車に同乗した。数メートル先はパスポートコントロール、さらにその先はウクライナ国内である。もちろん前線ではないので、そこで銃撃戦が繰り広げられているわけではない。でも、この土地が続いている先で繰り広げられている光景を想像してみる。



ヘルプセンターに来た母と 11 歳、9 歳、5 歳の姉、妹、弟の家族。父親は一緒にいないが、理由は聞かない。姉たちの爪にマニキュアを塗った。嬉しそうな 2 人。姉たちと同じことをしたい弟は自分にも塗れと要求してくる。次姉が「お母さん！いいの！？」と母親に確認する。母親の返事は No。でもそんなことを聞き入れるわけもない弟はしつこくせがむ。小指だけ

塗ってもらう。喜ぶ弟とそれを見て「やれやれ」という表情の 2 人の姉。どこにでもある姉弟の日常。でも、この子たちの本来の日常は戦争によって奪われ、避難を余儀なくされている。ふと見ると、さっきまで私と笑顔で話していた長姉が母親に何か訴えながら静かに泣いていた。なぜ泣いて

いるかは分からない。ただの姉弟喧嘩かもしれないし、もっとたわいのないことかもしれない。末弟は母姉たちがいて楽しい旅行と思っているのかもしれないが、11 歳の長姉は何か思うところがあるのだろう。

私は人が亡くなる理由が戦争であってはならないと思っている。戦争で傷ついた人を見た時、私は看護師としてどう感じるのだろうか。家族や友人を戦争で亡くした人を目の前にした時、自分の生まれ育った国を離れなければならない人たちを前に自分に何かできるのだろうか。私にできることは極わずかかもしれないが、残りの 1 ケ月、精一杯活動をしようと思っている。  
(AMDA 緊急救援ネットワーク登録看護師 菊池 友枝)



## フィリピン台風 22 号（2022 年）被災者緊急支援活動

2022 年 10 月 29 日、大型の台風 22 号が、フィリピン・カタンドゥアネス島に上陸し、30 日までに西に向かって複数の島を横断。各地で豪雨と洪水が相次ぎ、約 147 万世帯、598 万人が被災しました。（11 月 19 日、フィリピン国家災害リスク削減管理委員会発表）

同日、AMDA 本部は、AMDA フィリピン支部や現地協力団体などと連絡を取り、情報収集を開始。11 月 13 日から 2 日間、AMDA の活動を長年支援していただいている株式会社キッカワ（本社：岡山県倉敷市）と合同で、大規模な洪水被害に遭ったミンダナオ島サンボアンガ（Zamboanga）にて食糧支援を実施しました。当初、米や乾麺、イワシの缶詰などと共にコーヒー・ジュースのセットを 500 世帯に提供する予定でしたが、予想以上に支援を求める家族が多く、約 800 世帯に規模を拡大しました。このほか、食料品に加え、毛布や下着、衣類なども配布しました。



（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

## インドネシア・ジャワ島地震被災者緊急支援活動

2022 年 11 月 21 日午後、インドネシア・ジャワ島西部にてマグニチュード 5.6 の地震が発生。インドネシア国家防災庁（BNPB）によると、死者数 334 人、重傷者数 593 人、避難者数は 11 万人以上となっています。（12 月 10 日時点）

この深刻な被害状況を受け、スラウェシ島マカッサルにある AMDA インドネシア支部のアンディ・フスニ・タンラ支部長（ハッサヌディン大学名誉教授）は AMDA 本部に支援を要請。11 月 25 日、自身の教え子である西ジャワ州ボゴール（Bogor）のチアウィ総合病院の麻酔科医を中心に 19 人のスタッフで医療チームを結成し、同州チアンジュール県（Cianjur）に派遣しました。2 日間、支援の行き届いていないトゥングリス村（Tunggilis）とパシルチナ村（Pasir Cina）に入り、発熱や下痢、呼吸器疾患や疼痛などの症状を訴える方々 301 人を診察。医薬品の処方などを行いました。



その後、27 日には、チャリウ村（Cariu）にて、インスタントラーメンや牛乳などの食料品ならびに日用品を配布しました。救援活動は一旦終了したものの、12 月 12 日現在も復興支援に向けた調整が行われています。

（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

## 大阪・堺市にて写真展『写真で語るウクライナ避難者支援』

2022 年 8 月の岡山に続き、12 月 2 日から 4 日までコクリコさかい『堺市立男女共同参画センター』（大阪府堺市）にて、写真展『写真で語るウクライナ避難者支援』を開催しました。（協力：堺 自由の泉大学、後援：浄土宗 正明寺（堺市堺区））

今回、大学生 2 人が中心に準備を進め、当日は、支援活動の様子や活動中に会った方々との写真およびエピソードなど 50 点を展示。さらには、避難してきたウクライナの子どもたちが描いた絵や、人道危機前のウクライナの美しい「心の風景」の写真も出陳しました。ご協力いただいた『堺 自由の泉大学』の受講生を含む 252 人が会期中にお越しくださいました。ご来場者の方々からは、「AMDA のことを初めて知った」「支援したいけど、どうやって支援していいかわからなかった」「大阪での開催だったので来ることができた」などのお声をいただきました。また、3 日午前、ハンガリーで活動した AMDA 理事の難波妙が会場にて講演を行い、86 人の方にご参加いただきました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）



【イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」募金活動】

11 月 11 日、イオンモール倉敷でボランティアの方々とともに募金活動に参加しました。『イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン』は、お客さまがお買い物の際、イエローレシートを募金ボックスに入れていただき、レシートの合計金額の 1% 相当の品物を各団体に寄贈する仕組みです。“自分のお買い物で誰かを幸せにするキャンペーン”として、お客さまが積極的に、AMDА の募金ボックスに入れてくださいました。（AMDА 理事 財務会計 難波 比加理）



## 岡山県立大安寺中等教育学校 職場体験

11月8日から11日まで岡山県立大安寺中等教育学校の2年生2名がAMDAで職場体験をしました。緊急時の備蓄品の整理や郵送物の発送作業を体験したほか、AMDAの活動内容の話聞きまとめ、活動紹介用のパネルにして、岡山市にある『きらめきプラザ』（岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館）に展示しました。中学生から、「自分にはできることはないかと積極的に行動することで助け合える命があることがわかりました」との感想があり、人が国境を越えて助け合うことの大切さが伝わる機会となりました。

（AMDA 理事 財務会計 難波 比加理）



## AMDA 大槌健康サポートセンター リニューアルオープン

岩手県大槌町のAMDA大槌健康サポートセンター設立から11年。この度、建物を再建し12月4日にリニューアルオープンしました。地域の人々が近くで気軽に集まれるコミュニティスペースとして、健康増進事業や教室事業を運営しています。オープン当日は、AMDAの活動パネル、木工教室、さをり織り教室の作品の展示のほか、地元野菜、手作り小物、素材にこだわったパンの販売コーナーを設け、木工の手作りクリスマスツリー体験コーナー、メッセージボードに来場者のメッセージを書いていただくなど、45名の方がお越しくださいました。

## 復興グルメF-1大会 意見交換会・伝承館見学～気仙沼市、陸前高田市、南三陸町

12月1日から3日まで復興グルメF-1大会の関係先を訪問し、気仙沼紫市場商店街事務局の坂本正人さん、菅原尚美さん、陸前高田市の太田明成さん、南三陸町の三浦洋昭さん方と復興グルメF-1大会と被災地間交流について意見交換を行いました。気仙沼市復興祈念公園と震災当時の避難先であった安波山を訪れたほか、陸前高田の奇跡の一本松、『いわてTSUNAMIメモリアル』を見学しました。被災当時のままの消防車や、被災映像、震災の歴史から今後の教訓を後世に伝えていくという、大切なメッセージを感じました。また、南三陸町の佐藤仁町長を表敬訪問し、懇談を行いました。

このほか、気仙沼紫市場商店街の周辺地域で、収入が激減した家庭を対象に支援物資のお米を配布するため、岡山から参加されたボランティアさんとともに、お米100袋の仕分け作業を行いました。



### ～ボランティアさんの声～

「久々に訪れた東北の被災地。町の様子は変化していましたが、お会いした皆さんの笑顔は変わらず、それがとても嬉しかったです。支援する側、される側ではなく、災害大国で同じ時代を生きる仲間、大切な友人として、このご縁が末永く続くことを願っています」

「3年ぶりに気仙沼、陸前高田、南三陸町に行き、復興の現状を垣間見ました。防潮堤、道路、記念館等々ハード面の復興は進んでいたものの、人口減、住民の高齢化、各種支援金の終了等々、厳しい現状を伺いました。微力ですが、できる支援は続けていきたいと再認識しました」

（AMDA 理事 財務会計 難波 比加理）

## 連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第35回

## 十字屋グループ会長 牧 生 夫 様

AMDA を支えてくださっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。今回は、岡山県真庭市で活躍されている十字屋グループの牧生夫会長です。

(聞き手：AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部 本部長 大西 彰)

**AMDA** 菅波理事長との出会いについて教えてください。

**牧会長** 20 数年前より同業者の友人から菅波理事長とインドに行っていると聞かされていました。理事長は岡山県新庄村でも精力的に活動されていますが、ある時、十字屋には倉庫があるので、新庄村産のお米を預かってほしいと相談がありました。これがきっかけとなり、2011 年に災害時の連携協定を締結することになりました。

**AMDA** 本日は「支える喜び」の取材で訪問させていただきました。今更ですが、なぜ AMDA を支援してくださっているのでしょうか？

**牧会長** 理事長が書かれていることの中に、人道支援は、「スポンサーシップ」ではなく、「パートナーシップ」であり、「困った時はお互いさま」とあります。これは素晴らしいことだと思います。

こういった活動は、どうしてもスポンサーシップからのスタートになりがちですが、「お互いさま」から出発していることに感銘を受けました。特に印象的だったのが食糧の話です。昨今は食糧問題で大変な時代に入ってきましたが、この問題を先取りされていることに感心しました。私も 20 年前から食糧の備蓄などを行い、何か起きた際には、社員 200 名とその家族にそれらを提供したいと考えていました。食糧難は必ず来ると思います。こういった取り組みも AMDA との連携協定がきっかけとなっています。



**AMDA** 真庭市を訪れた際、\*『真庭あぐり

りガーデン』によく伺っていましたが、この商業施設が十字屋グループの一部であることを AMDA に入職して初めて知りました。多くの事業を展開されている中、グループ一丸となって循環型の企業を目指しているように思います。

**牧会長** そうですね。いずれの事業も、弊社の生業が地域に活かされて、やってくることができました。私は、「共生」を会社の理念として実現できる、「共に生かされている」「持ちつ持たれつ」という言葉が好きです。これこそ、理事長がいつも言われるパートナーシップではないかと思います。「地域に活かされて、いかに地域に還元できるか」とは、こういったことではないでしょうか。真庭地域は農業が非常に盛んなところですよ。近年、農業を本当の意味で見直さなくてはならない段階にきていると感じています。

**AMDA** 牧会長と菅波理事長の間には、通じ合うものがあると感じました。最後に、牧会長の今後の展望をお伺いします。

**牧会長** 世間は今後、「飽食の時代」から「生命を維持するための食」といった方向に向かうのではないのでしょうか。そのため、「我々自身が最低限の食で生きていける時代」になっていかなくてはならないと感じています。したがって、展望といいますか、自らの生活を節制し、昔のように 1 日 2 食の食生活に戻していく、そして、「身体の栄養」のみならず、「心の栄養」といった面にも働きかけていかなくてはならないと考えています。

(\*2023 年 4 月にリニューアルオープンの予定)

取材後、真庭あぐりガーデン内にある『十字屋商店』で、「循米 (めぐりまい)」を使ったおにぎりをいただきました。このお米は液肥循環農法で栽培されています。大変美味しくいただきました。